

北九州高速鉄道株式会社の
経営状況について

平成 26 年 8 月

建 築 都 市 局

第38期 事業報告

(平成25年4月1日から
平成26年3月31日まで)

1 株式会社の現況に関する事項

(1) 事業の経過及びその成果

当期におきましては、引き続きお客様の安全、正確、快適、利便性の向上に努め、さしたる事故もなく順調に運行を続け開業からの輸送人員が3億2,286万人に達しました。

当期は、前期にあった沿線施設開業のオープン効果や大型マンションの竣工、市制50周年関連イベント開催等特殊要因による増に対する反動減があったものの、平成26年4月1日の消費税増税に伴う乗車券の先買いによる増の他にも、モノレールチャーター便の運行等、増客施策を実施することによって、当初見込みを上回る輸送人員を確保することができました。

なお、運輸雑収については広告等販売促進に努めた結果、4件のラッピング列車の新規獲得に成功しました。

その結果、営業収益は前期とほぼ同額を確保することができ、修繕費の増や料金単価の増による電気代の増等に関わらず営業費も前期とほぼ同額となり、営業損益も前期並みに維持することができました。

長寿命化事業の受託による営業外収益の増と補助金の増及び固定資産除却損の減による特別損益を加えた当期純損益は前期に比べ大幅に改善されたものの、引き続き損失を計上することとなりました。

ア 輸送人員

当期の輸送人員は、1,148万人（前期比26万人、2.3%増）で、一日当りの輸送人員は、31,466人（前期比699人、2.3%増）となり平成16年度以来9年ぶりに31,000人を超えました。

- 定期外利用客は、前期の「B-1 グランプリ」の開催や「サンリブもりつね」の開業効果等による反動減があったものの、平成26年4月1日の消費税増税に伴う回数券の先買い等により、前期とほぼ同数の623万人（前期比2万人、0.3%増）となりました。
- 定期利用客は、平成26年4月1日の消費税増税に伴う先買い等により全券種に亘り増加し、526万人（前期比24万人、4.7%増）となりました。
 - ・ 通勤定期利用客は、313万人（前期比7万人、2.4%増）となりました。
 - ・ 通学定期利用客は、150万人（前期比12万人、9.0%増）となりました。
 - ・ シルバーパス利用客は、63万人（前期比4万人、7.2%増）となり、当期末有効枚数は981枚となりました。

(輸送人員対比表)

(単位：人)

区 分	平成24年度	平成25年度	対前期増減	前期比(%)
輸 送 人 員	11,229,855	11,484,952	255,097	2.3
定期外	6,210,979	6,228,510	17,531	0.3
定 期	5,018,876	5,256,442	237,566	4.7
通 勤	3,056,134	3,128,000	71,866	2.4
通 学	1,379,182	1,502,746	123,564	9.0
シルバーパス	583,560	625,696	42,136	7.2
一日平均輸送人員	30,767	31,466	699	2.3

イ 営業損益

運輸収入は、輸送人員の増加に伴い、19億2,608万円（前期比2,598万円、1.4%増）となりました。

運輸雑収については、媒体広告の出稿減及びテナント退去に伴う構内営業料及び雑入の減により、1億9,183万円（前期比489万円、2.5%減）となり、営業収益は、前期とほぼ同額の21億1,791万円（前期比2,109万円、1.0%増）となりました。

営業費は、消費税増税に伴う駅務機器の改造等による修繕費の増や、料金単価の増による電気代の増により、22億2,308万円（前期比2,252万円、1.0%増）となり、当期の営業損益は、1億517万円の損失（前期比143万円、1.4%減）となりました。

ウ 経常損益

上記営業損益に営業外損益を加えた当期の経常損益は、1,222万円の損失（前期比515万円、29.7%増）となりました。

エ 当期純損益

上記経常損益に地域公共交通確保維持改善事業費補助金等特別損益を加え、法人税等を差し引いた当期純損益は、3,326万円の損失（前期比8,465万円、71.8%増）となりました。

(損益計算対比表)

(単位：千円、端数四捨五入)

区 分	平成24年度	平成25年度	対前期増減	前期比 (%)
運輸収入	1,900,096	1,926,078	25,982	1.4
運輸雑収	196,723	191,831	△ 4,892	△ 2.5
営業収益 A	2,096,819	2,117,909	21,090	1.0
営業費 B	2,200,554	2,223,077	22,523	1.0
営業損益 C(A-B)	△ 103,735	△ 105,168	△ 1,433	△ 1.4
営業外収益 D	86,379	92,944	6,565	7.6
営業外費用 E	22	—	△ 22	△ 100.0
営業外損益 F(D-E)	86,357	92,944	6,587	7.6
経常損益 G(C+F)	△ 17,378	△ 12,224	5,154	29.7
特別利益 H	—	18,237	18,237	—
特別損失(固定資産除却損) I	95,601	34,338	△ 61,263	△ 64.1
特別損益 J(H-I)	△ 95,601	△ 16,101	79,500	83.2
税引前当期純損益 K(G+J)	△ 112,979	△ 28,325	84,654	74.9
法人税等 L	4,932	4,932	—	—
当期純損益 K-L	△ 117,911	△ 33,257	84,654	71.8

(2) 設備投資の状況

当期に実施した設備投資の総額は、331,276千円であります。

なお、主要な設備投資は、次のとおりです。

- ・ 車両改造更新(編成8) 294,000千円
- ・ 通信ケーブル(香春口～片野) 11,400千円

(3) 資金調達の状況

該当する事項はありません。